

採択拠点の拠点形成概要及び採択理由

【分野名：学際、複合、新領域】

| | | | |
|--|-----------------------|------|-------|
| 大 学 名 | 京都大学 | 整理番号 | J - 2 |
| 拠点のプログラム名称 | ゲノム科学の知的情報基盤・研究拠点形成 | | |
| 中核となる専攻等名 | 化学研究所バイオインフォマティクスセンター | | |
| 事業推進担当者 | (リダー) 金久 實 外13名 | | |
| <p>(拠点形成の概要)</p> <p>ゲノム科学は、ゲノムの情報から細胞・個体・生態系レベルでの高次生命現象の全体像を明らかにしていく、21世紀の新しい生命科学である。その中核となるのがバイオインフォマティクスで、個々の部品（遺伝子・分子）の集まりから生命の情報システムを再構築する概念と方法論が開発されてきた。これからのゲノム科学においては、とくに医療や産業への応用を目指したゲノム科学においては、個体や生態系を複雑な情報システムとしてとらえ、システムと環境との相互作用の観点から、ヒトの健康や地球環境の保全を考えていく必要がある。本拠点ではそのために、生命科学と情報科学の融合はもちろん、物理科学と融合したアプローチ、化学情報との融合、さらには広範な知識のコンピュータ化を行い、創薬科学など応用ゲノム科学の知的情報基盤を形成し、バイオインフォマティクスの学際研究教育拠点を形成する。</p> | | | |
| <p>(採択理由)</p> <p>生命科学を中心に諸科学を融合させ、ゲノム科学の知的情報基盤とバイオインフォマティクスの学際研究教育拠点の形成を目指す重要な提案であり、その研究教育レベルはすでに世界水準にあるものと認められる。基盤となる創薬科学からより学際的な方向に発展することによって、世界水準の長期的な維持・強化に加え、バイオインフォマティクスにおける層の厚い人材の養成が期待できる。</p> | | | |